

説明書に記載がない液晶表示について

弊社製デジタル簡易無線登録局トランシーバーは、弊社ウェブサイトからダウンロードできる編集ソフトと、別売アクセサリーのPCケーブル ERW-7 を使うことで内蔵のセンサーを利用した機能が使えるようになります。販売店でこのような設定をして納品されることも考えられますが、本体の説明書には表示について記載がありません。以下、その内容です。

① [自分自身で警報音] :

編集ソフトの「秘話・拡張設定」タブで拡張設定を選択すると編集できるようになる「ショックセンサー欄」右側の項目の「警報音のみ」で選択した秒数の間、電波は送信せずに本体から音が鳴るのみの動作をおこない、その動作中に表示されます。例えばドアを開けたら倒れるような場所に無線機を置いておき、開いたらアラーム音で警告する仮設の簡易警報装置のような使いかたもできます。

② [鳴りつつ緊急通報] :

同じく「音+通報」で選択した秒数の間、本体から音が鳴りつつ警報電波も送信、その動作中に表示されます。作業員が倒れた場合に、周囲の人に警報音で知らせつつ、離れた現場事務所など直接音が届かない場所に異常を伝える「ローンワーカー」、「マンダウン」と呼ばれる機能です。

③ [こっそり緊急通報] :

同じく「静かに送信」で選択した秒数の間、本体からは音が鳴らずに警報電波のみを送信、その動作中に表示されます。身に危険が迫った時に無線機を倒すことで、その場では音を鳴らさず、目の前の相手には内緒で離れた場所に異常を知らせたい時に使います。

- ④ [周囲の音声を送信] :
同じく「音声送信」で選択した秒数の間、本体からは音が鳴らずにマイクで拾っている周囲の音を送信、その動作中に表示されます。警報の発信場所がどういう状況になっているか、モニターしたいときに使います。
- ⑤ [受信状態] :
同じく「受信」で選択した秒数の間、通常の受信状態となり、その動作中に表示されます。警報を発信したユーザーに連絡するときに使いますが、通常の通話が可能なときは警報機能を使う必要性は低いものです。「大丈夫か!」「今行きます!」のような呼びかけが必要と考えられる場合のみ設定してください。

実際の動作は、上記の5つの項目を上から順番に一通り行うのが1セットで、どれか一つだけ選択するのではなく、「0秒」を選択したものを除き、任意の複数個の動作が選べます。そしてこの1セットを、何セット繰り返すのかというのが、編集ソフトの「繰り返し回数」です。

ご不明な点は、説明書に記載の弊社カスタマーサービス窓口にご相談ください。